

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語科指導法Ⅰ (TEFLⅠ)						科目分類	教職課程科目		
担当教員	廣本 和枝									
履修条件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>文部科学省の指導要領で採用している「学校文法」(pedagogic grammar)について理解を深める。また、日本人が英語を学ぶ場合に留意しなければならない点を、音声、語彙、文法の各項目について、具体的にテキストとハンドアウトの英文を用いて考え、生徒を指導できるに十分な英語の運用能力の基礎固めをする。</p> <p>授業目標：</p> <p>英語の教員として自信を持って教壇にたてるようになるために、最低限必要な英語の基礎固めをすることを目標とする。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態		
1	学校文法：名詞・代名詞					事前：Text pp.12-19 事後：シャドウイング		演習 90分		
2	学校文法：動詞					事前：Text pp.20-23 事後：シャドウイング		演習 90分		
3	学校文法：助動詞					事前：Text pp.24-27 事後：シャドウイング		演習 90分		
4	学校文法：形容詞・副詞					事前：Text pp.28-33 事後：シャドウイング		演習 90分		
5	学校文法：単語の役割と文・文の種類・主述の一致					事前：Text pp.34-47 事後：シャドウイング		演習 90分		
6	学校文法：現在形と現在進行形					事前：Text pp.48-51 事後：シャドウイング		演習 90分		
7	学校文法：過去形と現在完了形					事前：Text pp.52-55 事後：シャドウイング		演習 90分		
8	学校文法：過去進行形と過去完了・動詞の変形					事前：Text pp.56-63 事後：シャドウイング		演習 90分		
9	学校文法：受動態					事前：Text pp.100-103 事後：シャドウイング		演習 90分		
10	学校文法：分詞					事前：Text pp.70-73 事後：シャドウイング		演習 90分		
11	学校文法：関係代名詞・関係副詞					事前：Text pp.74-83 事後：シャドウイング		演習 90分		
12	学校文法：原級・比較級・最上級					事前：Text pp.84-87 事後：シャドウイング		演習 90分		
13	学校文法：接続詞・前置詞					事前：Text pp.88-95 事後：シャドウイング		演習 90分		
14	学校文法：不定詞・動名詞					事前：Text pp.96-99 事後：シャドウイング		演習 90分		
15	学校文法：仮定法・疑問詞					事前：Text pp.104-111 事後：シャドウイング		演習 90分		
<p>教本：</p> <p>『TOEICテスト 書き込みノート 文法編 新形式に対応!』学研 ¥1,300 税別 文部科学省『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説：外国語編』開隆堂 ¥119 税別</p>					<p>参考文献：</p> <p><i>How English Works: A Grammar Practice Book</i> M. Swan, & C. Walter, Oxford Univ. Press</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況 (40%)、定期試験 (60%) で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>標準的な文法用語を理解できるようになってください。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 科 指 導 法 Ⅱ (TEFL Ⅱ)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 中 学 ・ 高 校 の 英 語 教 員 と なる た め に 必 要 な 力 を 養 う た め に 、 配 布 す る ハ ン ド ア ウ ト の 項 目 ご と の ‘Activities’ を 実 践 す る 。 英 語 の 教 授 法 に つ い て 理 解 を 深 め 、 文 部 科 学 省 の 学 習 指 導 要 領 に 基 づ い て 教 案 作 成 が で き る よ う に なる た め の 基 礎 知 識 を 学 ぶ 。									
授 業 目 標 : 英 語 の 教 員 と し て 自 信 を 持 っ て 教 壇 に た てる よ う に なる た め に 、 最 低 限 必 要 な 英 語 教 育 の 基 礎 固 め を す る こ と を 目 標 と す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	学 習 指 導 要 領 (小 学 校 、 中 学 校) 教 科 書 pp. 27-34					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
2	学 習 指 導 要 領 (中 学 校 、 高 校) 教 科 書 pp. 34-37					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
3	国 際 基 準 Common European Framework of Reference: Can-Do-List 中 学 校 教 科 書 と コ ー ス ブ ッ ク <i>Four Corners</i> の 実 例					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
4	教 授 法 (Language Teaching Methodology: Method, Approach, Design, Procedure) Handouts pp. 1-3, 教 科 書 pp. 78-79					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
5	教 授 法 の 比 較 (Language Teaching Methodology: The Table) Handouts pp. 4-5, 教 科 書 pp. 79-96					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
6	CLT の 定 義 (the definition of ‘communicative approach’) Handouts pp. 6-8, 教 科 書 pp. 89-96					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
7	CLT (Communicative Language Teaching) Handouts pp. 9-11, 中 学 校 教 科 書 の 実 例					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
8	Tasks of CLT (Tasks of Communicative Language Teaching) Handouts pp. 9-11, コ ー ス ブ ッ ク <i>Four Corners</i> の 実 例					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
9	第 二 言 語 の 習 得 : 概 要 (Second Language Acquisition: Communication) Handout pp. 12, 教 科 書 pp. 97-101					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
10	第 二 言 語 の 習 得 : 動 詞 (Second Language Acquisition: How to Deal with Verbs) Handouts pp. 13-14, 教 科 書 pp. 101-106					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
11	第 二 言 語 の 習 得 と 自 身 の シ ス テ ム (Second Language Acquisition and Your Own System) Handouts pp. 15-17, 教 科 書 pp. 106-109					事 前 : ハ ン ド ア ウ ト を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
12	学 校 文 法 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (Pedagogic Grammar and Communication) Handouts pp. 18-19, 教 科 書 pp. 226-230					事 前 : 資 料 を 読 む 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
13	学 校 文 法 は 大 雑 把 (Pedagogic Grammar as the Rule of Thumbs) Handouts pp. 20-21, 教 科 書 pp. 230-240					事 前 : 資 料 に 目 を 通 す 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
14	学 習 者 の 要 因 (Learners Factors) 教 科 書 pp. 38-44					事 前 : 資 料 に 目 を 通 す 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
15	学 習 者 の 方 略 (Learners Strategy) 教 科 書 pp. 44-51					事 前 : 資 料 に 目 を 通 す 事 後 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン		演 習 90 分	
教 本 : 【新 学 習 指 導 要 領 に も と づ く 英 語 科 教 育 法】 第 3 版 望 月 明 彦 編 著 大 修 館 書 店 ¥2,300 税 別 【文 部 科 学 省 中 学 校 学 習 指 導 要 領 (平 成 29 年 告 示) 解 説 : 外 国 語 編】 開 隆 堂 ¥119 税 別					参 考 文 献 : <i>A Framework for Task-Based Learning</i> J. Willis Longman				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 (50%)、 定 期 試 験 (50%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 副 教 材 と し て 英 語 で 書 か れ た ハ ン ド ア ウ ト を 配 布 し ま す の で 、 教 科 書 の 該 当 す る と ころ を 参 照 し て 、 ハ ン ド ア ウ ト の ‘Activities’ の 要 旨 を 理 解 す る よ う に し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語科指導法Ⅲ (TEFLⅢ)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	廣本 和枝								
履 修 条 件	前提科目	英語科指導法Ⅰ・Ⅱ							
	その他	なし							
授業概要： 外国語としての英語教育について、演習形式で学ぶ。ハンドアウトの 'Activities' についてディスカッションをしながら、要点を明確にしていく。自分の英語学習の体験に基づいて積極的に発言することが望まれる。									
授業目標： 英語教育の理論や研究について学び、それらを用いて、文部科学省の学習指導要領に沿った教案を準備できるようにすることが目標である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	英語教育について 教科書 pp. 3-13					事前：なし 事後：ディスカッション		演習 90分	
2	英語の国際化 教科書 pp. 14-26					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
3	日本の英語教育概観：ハンドアウト 山田雄一郎著『日本の英語教育』抜粋 教科書 p. 26					事前：教科書を読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
4	語彙：形態素とイディオム (Lexis: Morphemes and Idioms) Handouts pp. 21-23 教科書 pp. 241-249					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
5	語彙：コロケーション (Lexis: Collocation) Handouts pp. 24-25 教科書 pp. 249-253					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
6	シラバスと教科書 (Syllabus and Coursebook) Handout p. 25 教科書 pp. 213-216					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
7	シラバスと教材 (Syllabus and Materials: Sequencing of Grammar Items) Handout p. 26 教科書 pp. 216-220					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
8	シラバスと教材：本物らしさ (Syllabus and Materials: AReal-World Interaction) Handouts pp. 27-28 教科書 pp. 220-223					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
9	シラバスと教材の実例 (Syllabus and Materials: Handout, 'Find seven differences') 教科書 pp. 223-225					シラバス		演習 90分	
10	教室での談話：前置き (Classroom and Spoken Discourse: Introduction) Handout p. 29					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
11	教室での談話と談話分析 (Classroom and Spoken Discourse: Analyzing Classroom Discourse) Handouts pp. 30-31					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
12	音韻体系：調子単位 (Phonology: Tone Unit) Handouts pp. 32-33					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
13	音韻体系：同時調音・同化・音脱落 (Phonology: Co-articulation, Assimilation and Elision) Handout p. 33					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
14	Information and Communication Technology と eラーニング 教科書 pp. 201-212					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
15	授業運営とティーム・ティーチング 教科書 pp. 201-212, pp. 178-187					事前：ハンドアウト参照 事後：ディスカッション		演習 90分	
教本： 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』第3版 望月明彦編著 大修館書店 ¥2,300 税別 『文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説：外国語編』開隆堂 ¥119 税別					参考文献： <i>A Framework for Task-Based Learning</i> J. Willis Longman				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況（50%）、定期試験（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業毎に次の授業の資料を配布しますので、目を通して授業に臨んでください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 科 指 導 法 IV (TEFL IV)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前 提 科 目	英 語 科 指 導 法 I、II、III							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 外国語としての英語教育について、より具体的に、四技能の指導やクラス運営について学ぶ。教材を各自選んで、学んだことを実際に試み、教授法や評価法、あるいは教材そのものについて考察し、ディスカッションする。									
授 業 目 標： 英語教育の理論や研究について学び、それらを用いて文部科学省の学習指導要領に沿った教案を作成し、教室で具体的に実践できるようになることが目標である。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	コミュニケーション活動の育成 参考教材例資料 教科書 pp. 110-119					事前：なし 事後：ディスカッション		演習 90分	
2	リスニングの指導 参考教材例資料 教科書 pp. 120-134					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
3	スピーキングの指導 参考教材例資料 教科書 pp. 135-147					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
4	リーディングの指導 参考教材例資料 教科書 pp. 148-162					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
5	ライティングの指導 参考教材例資料 教科書 pp. 163-177					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
6	授業分析 (Classroom Research and Research Method) Handouts pp.35-36 教科書 pp. 258-266					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
7	チーム・ティーチング (Team Teaching) 教科書 pp. 178-187					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
8	測定と評価 (Testing) Handouts pp. 42-43 教科書 pp. 188-200					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
9	授業運営 (Classroom Management) Handouts pp. 44-46 教科書 pp. 255-258					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
10	教員養成 (Teacher Training) Handouts pp. 47-48 教科書 pp. 52-62					事前：ハンドアウトを読む 事後：ディスカッション		演習 90分	
11	模擬授業準備 模擬授業使用教科書から実施する課を決定 教科書 pp. 264-266					事前：教科書の課を一つ選ぶ 事後：ディスカッション		演習 90分	
12	模擬授業準備 教案・教材作成 教科書 pp. 274-282					事前：教材収集・作成 事後：ディスカッション		演習 90分	
13	第1回模擬授業実施と考察					事前：模擬授業練習 事後：ディスカッション		演習 90分	
14	模擬授業の教案・教材の修正および追加など					事前：修正授業案の作成 事後：ディスカッション		演習 90分	
15	第2回模擬授業実施と考察					事前：模擬授業練習 事後：ディスカッション		演習 90分	
教 本： 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』第3版 望月明彦編著 大修館書店 ¥2,300 税別 『文部科学省 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説：外国語編』開隆堂 ¥119 税別					参 考 文 献： A Framework for Task-Based Learning J. Willis Longman				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 授業参加状況 (50%)、定期試験 (50%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 授業毎に次の授業の資料を配布しますので、目を通して授業に臨んでください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	教 育 課 程 論 (Curriculum Study)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	小 野 村 浩								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
1. 教 育 課 程 の 意 義 及 び 編 成 の 方 法 。 2. 教 育 課 程 に 関 連 す る 法 令 (憲 法 / 教 育 基 本 法 / 学 校 教 育 法 / 学 校 教 育 法 施 行 規 則 等) 及 び 学 習 指 導 要 領 の 位 置 付 け 。 3. 学 習 指 導 要 領 の 変 遷 と 教 育 課 程 の 編 成 。 4. 教 育 課 程 ・ 学 習 指 導 要 領 変 遷 の 背 景 や 現 状 と 課 題 。 5. 教 育 課 程 の 編 成 と 学 校 の 組 織 的 な 指 導 計 画 ・ 指 導 体 制 ・ 関 係 機 関 と の 連 携 の あり 方 。 6. 特 別 活 動 ・ 「 総 合 的 な 学 習 の 時 間 」 ・ 生 活 指 導 ・ 進 路 指 導 等 と の 関 連 。									
授 業 目 標 :									
1. 教 育 課 程 の 内 容 ・ 学 習 指 導 要 領 の 歴 史 や 変 遷 を 知 り 、 編 成 の あり 方 を 理 解 す る 。 2. 学 習 指 導 要 領 や 根 拠 と なる 法 令 (憲 法 / 教 育 基 本 法 / 学 校 教 育 法 / 学 校 教 育 法 施 行 規 則 等) の 位 置 付 け を 理 解 す る 。 3. 教 育 課 程 の 基 本 的 な 構 造 に つ い て 理 解 す る 。 4. 教 育 課 程 の 編 成 の 方 法 や カ リ キ ュ ラ ム ・ マ ネ ジ メ ン ト ・ 評 価 の あり 方 に つ い て 理 解 す る 。 5. 教 育 課 程 の 編 成 と 学 校 の 組 織 体 制 ・ 関 係 機 関 と の 連 携 の あり 方 に つ い て 理 解 し 、 組 織 の 一 員 と し て 連 携 で き る よ う に な る 。 6. 年 間 行 事 計 画 の 編 成 や 学 校 行 事 等 の あり 方 と 教 育 課 程 編 成 と の 関 連 を 理 解 す る 。 7. 生 活 指 導 ・ 教 育 相 談 ・ 進 路 指 導 等 と の 関 連 に つ い て 理 解 し 、 教 員 と し て 指 導 す る こ と が で き る よ う に な る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 ・ 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	教 育 課 程 の 意 義 と カ リ キ ュ ラ ム の 意 味 。 学 校 教 育 の 現 状 と 教 育 課 程 上 の 課 題 に つ い て 。					事 前 : な し 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
2	教 育 課 程 と 学 習 指 導 要 領					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
3	「 生 き る 力 」 を 育 て る ～ 学 習 指 導 要 領 改 訂 の 経 緯 ～ 平 成 29 ・ 30 ・ 31 年 改 訂 学 習 指 導 要 領 の 特 色					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
4	確 かな 学 力 を 育 て る ～ 言 語 活 動 の 充 実 と 学 力 向 上 対 策 ～ < 協 議 ・ グ ル ー プ 発 表 >					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
5	「 生 き る 力 」 と 「 確 かな 学 力 」 ・ 「 総 合 的 な 学 習 (探 究) の 時 間 」 < 協 議 ・ グ ル ー プ 発 表 >					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
6	「 豊 かな 心 」 を 育 て る ～ 全 教 育 活 動 を 通 じ て 行 う 道 徳 教 育 ～ < 協 議 ・ グ ル ー プ 発 表 >					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
7	「 健 や か な 体 」 を 育 て る ～ 健 康 ・ 安 全 に 関 す る 教 育 ～					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
8	「 自 己 肯 定 感 」 「 規 範 意 識 」 を 高 め る ～ 特 別 活 動 と 部 活 動 等 ～ < 協 議 ・ グ ル ー プ 発 表 >					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
9	教 育 課 程 編 成 の 実 際 ・ 実 施 上 の 配 慮 事 項 と 学 校 評 価					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
10	「 開 か れ た 学 校 」 の 具 現 化 と 地 域 連 携 に つ い て < 協 議 ・ グ ル ー プ 発 表 >					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
11	教 育 課 程 を め ぐ る 諸 課 題 (人 権 教 育 ・ 生 命 尊 重 教 育 ・ 国 際 理 解 教 育)					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
12	教 育 課 程 を め ぐ る 諸 課 題 (総 合 的 な 学 習 の 時 間 等) 及 び 平 成 29 ・ 30 ・ 31 年 改 訂 学 習 指 導 要 領					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
13	教 育 課 程 を め ぐ る 諸 課 題 (キ ャ リ ア 教 育 等) 及 び 平 成 29 ・ 30 ・ 31 年 改 訂 学 習 指 導 要 領					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
14	教 育 課 程 を め ぐ る 諸 課 題 (特 別 支 援 教 育 等) 及 び 平 成 29 ・ 30 ・ 31 年 改 訂 学 習 指 導 要 領					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
15	ま と め … 「 学 校 不 要 論 に 対 し て 、 教 師 と し て ど の よ う に 考 え ま す か 。 」 < 協 議 >					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		対 面	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授 業 中 に 毎 時 資 料 を 配 布 す る					『 教 育 課 程 論 』 吉 田 武 男 監 ・ 根 津 朋 実 編 ・ ミ ネ ル ヴ ァ 書 房 2019.2 『 中 学 校 学 習 指 導 要 領 (平 成 29 年 告 知) 解 説 総 則 編 』 文 部 科 学 省 『 高 等 学 校 学 習 指 導 要 領 (平 成 30 年 告 知) 解 説 総 則 編 』 文 部 科 学 省				
成 績 評 価 の 方 法 ・ 評 価 基 準 :									
課 題 レ ポ ー ト (5 点 × 14 回) 期 末 レ ポ ー ト (20 点) グ ル ー プ ワ ー ク 発 言 等 (10 点)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
教 員 と し て の 資 質 ・ 知 識 を 身 に つ け る た め 、 積 極 的 な 態 度 で 課 題 や 授 業 に 取 り 組 む こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	教 育 原 理 (Foundations of Education)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	大 沢 裕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 教育の理念と意味、教育思想の歴史の変遷、教育の目的・内容・方法の関連、教育制度・法規の実際、生涯学習社会の教育のあり方、現代の喫緊の課題などを理解させる。教育の基礎的・基本的概念の習得をさせ、教育活動実践原理の体系的な理解を促す。									
授 業 目 標 : 教育の意義、理念について理解し、教育の思想と歴史の変遷について学び、教育の基礎的理論を理解する。教育の制度・法規について理解する。教育実践の様々なあり方を知る。生涯学習社会の教育の現状と課題について認識する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	教育の意義				事前：教育の記事を読んでおく 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
2	教育の目的・理念				事前：望ましい人間像を考える 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
3	家庭教育 (家族の教育)				事前：家庭で受けた教育を思い出しておく 事後：ノートを読み返す			VTR 試聴 45分、 グループ討論 45分	
4	学校教育				事前：家庭と学校の違いを考える 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
5	社会教育				事前：地域の行事を考える 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
6	諸外国の教育思想と歴史 (古代)				事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
7	諸外国の教育思想と歴史 (中世とルネッサンス期)				事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
8	諸外国の教育思想と歴史 (近代)				事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
9	我が国の教育思想と歴史				事前：日本史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
10	人権教育				事前：人権に関する新聞記事を読む 事後：討論の結果を読み返す			グループ討論 60分、 発表 30分	
11	近代の教育制度・教育法規の基礎				事前：教育法規を調べておく 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
12	教育の内容				事前：望ましい経験について考えておく 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
13	教育の方法				事前：教育方法について事前学習する 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
14	教育実践の様々な取り組み				事前：PCで世界の教育を調べてみる 事後：討論の結果を読み返す			VTR 試聴 45分、 グループ討論 45分	
15	生涯学習と現代の教育課題				事前：教育の時事問題を調べてみる 事後：なし			グループ討論 45分、 講義 45分	
教 本 : 教 本 :『教育の知恵60』(大沢裕編著、一藝社)					参 考 文 献 : 適宜、授業時に掲示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 教育に関わる基礎的事項が理解でき、教育的なものの見方・考え方が身についているかを、討論の発表内容、複数回提出させるレポートの内容、筆記試験によって総合的に評価する。評価の配分基準：討論の発表内容 (10%)、レポート内容 (30%)、筆記試験 (60%)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 絶えず教育の時事的問題に関心を持ち、新聞記事を読んだり、インターネットで調べてみたりする習慣を身につけること。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	教 育 実 習 I (Practice Teaching I)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	深 谷 野 亜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	教 職 課 程 履 修 生 し か 受 講 で き ま せ ン							
授 業 概 要 :									
来年度、教育実習に行くことを前提とし、模擬授業を軸に実践的な訓練をしていきます。									
授 業 目 標 :									
教育実習生として必要な知識・資質について改めて自己認識自己評価をし、主体的に学ぶ姿勢を育成していきます。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オリエンテーション				事前：なし 事後：次回の配布資料を読む。			講義70分・発表20分	
2	教育実習とは何か 教育実習中の時間の過ごし方を理解すると共に、それぞれ課題を考えてみます。				事前：配布資料を読む。 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・ ディスカッション30分	
3	教育実習生に必要なものとは何か 実習生としてどんな準備が必要だと思うか、具体的に話し合い、自覚を高めていきます。				事前：配布資料を読む。 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・ ディスカッション30分	
4	教育実習に行くためにⅠ（理想とする教師とは） 実習に行く前に、改めて自分にとって理想とする教師像は何かを確認します。				事前：配布資料を読む。 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・ ディスカッション30分	
5	教育実習に行くためにⅡ（個人情報の取り扱いについて） 個人情報を取り扱う注意点や責任の重さについて考えます。				事前：個人情報に関連した事件を調べる。 事後：授業内容をまとめる。			講義60分・ ディスカッション30分	
6	子どもの権利条約 実習に行くに当たり、「子どもの権利条約」を理解し、子どもの人権について考えます。				事前：配布資料を読む。 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・ グループワーク30分	
7	障害者の権利に関する条約 障害者の権利に関する条約を理解し、障害者の人権と「合理的配慮」について理解します。				事前：配布資料を読む。 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・ グループワーク30分	
8	主体的な学びについて考える 子どもたちが主体的対話的で深い学びとは何かを考え、そのためには何か必要かを考えます。				事前：配布資料を読む。 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・ ディスカッション30分	
9	指導案について学ぶⅠ（生徒観・評価について考える） 指導案の生徒観・評価について、基礎を理解します。				事前：配布資料を読む。 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・ グループワーク30分	
10	指導案について学ぶⅡ（ワークシート・板書計画について） いくつかの実践例から、どういったワークシート・板書計画が有効かを考えます。				事前：配布資料を読む。 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる。			講義60分・ グループワーク30分	
11	指導案について学ぶⅢ（指導案の作成） 前回の指導内容をふまえ、各自指導案を作成してみます。				事前：配布資料を読む。 事後：作成した指導案を使い、授業をシミュレートする。			講義10分・ グループワーク80分	
12	履修生による模擬授業Ⅰ				事前：指導案を作成。 事後：模擬授業の自己評価・改善点をまとめる。			発表70分・ ディスカッション20分	
13	履修生による模擬授業Ⅱ				事前：指導案を作成。 事後：模擬授業の自己評価・改善点をまとめる。			発表70分・ ディスカッション20分	
14	履修生による模擬授業Ⅲ				事前：指導案を作成。 事後：模擬授業の自己評価・改善点をまとめる。			発表70分・ ディスカッション20分	
15	まとめ				事前：授業全体のふりかえりしておく。 事後：今後の課題をまとめる。			講義30分・グループワーク30分・ ディスカッション30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
毎回、作成したプリントを配布し、それにそって授業をすすめていきます。					授業中、適宜指示します。				
成 績 評 価 の 方 法、 評 価 基 準 :									
授業参加状況等 (50%)、レポート・プレゼンテーション等 (50%)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
教育実習生として、自分が何をすべきか、何が課題かがわかれば、自分がすべきことがわかると思います。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教育社会学 (Sociology of Education)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	小澤 昌之・深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	教職課程履修生しか受講できません							
授業概要： この授業では、教育社会学の研究成果や統計・調査データを紹介しながら、学校・家庭・社会という場所を中心としながら、広い範囲で影響をおよぼす「教育」について客観的に理解することを目指す。「ジェンダー」「学校教育」「学校安全への対応」といったテーマをもとに、自らの「常識」を問い直す作業を通して、教育に関わる問題や課題について社会的視点から検討していく。									
授業目標： 学校・家庭・社会を中心として、教育という営みを「社会学」の視点から理解し、「常識」とされる事柄を客観的に捉えなおすことができるようになることを目指す。教育格差や貧困などのように、現代社会のかかえる問題について、その現状や背景を知り、自分の言葉で社会的に論じることができるようになることを最終目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	イントロダクションー教育社会学とは何か（小澤）				事前：シラバスを読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義70分・ ディスカッション20分		
2	学校教育(1)：学級・ホームルームの仕組み（小澤）				事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義70分・ ディスカッション20分		
3	学校教育(2)：教員組織と教師の役割（小澤）				事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義70分・ ディスカッション20分		
4	学校教育(3)：教師－生徒関係と学校文化（小澤）				事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義70分・ ディスカッション20分		
5	学校教育とジェンダー：学校空間と進学に注目して（深谷）				事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義70分・ ディスカッション20分		
6	日本の教育を取り巻く環境：教室にある多様性（小澤）				事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義70分・ ディスカッション20分		
7	家庭と教育(1)：教育する家族と戦後日本社会（深谷）				事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義40分・ グループワーク40分・ 発表10分		
8	家庭と教育(2)：家庭教育と幼児教育の変化（深谷）				事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義40分・ グループワーク40分・ 発表10分		
9	家庭と教育(3)：社会化過程と子育ての多様化（深谷）				事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義40分・ グループワーク40分・ 発表10分		
10	家庭と教育(4)：現代社会の貧困と家庭での教育の関係（深谷）				事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義40分・ グループワーク40分・ 発表10分		
11	「学歴社会」の変貌：学校教育と選抜のメカニズム（小澤）				事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義40分・ グループワーク40分・ 発表10分		
12	学校と社会(1)：進学・就職の多様化と若者の仕事（小澤）				事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義40分・ グループワーク40分・ 発表10分		
13	学校と社会(2)：教育格差の拡大と対応した日本の教育政策（深谷）				事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義40分・ グループワーク40分・ 発表10分		
14	学校と社会(3)：学校・家庭・社会による危機管理対応のゆくえ（深谷）				事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、授業内容を理解しておく		講義40分・ グループワーク40分・ 発表10分		

15	学校・家庭・社会における課題の深層と今後のゆくえ（小澤）	事前：次回の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、 授業内容を理解しておく	講義40分・ グループワーク40分・ 発表10分
<p>教本： 荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗『新・教育の社会学—常識の問い方，見直し方』有斐閣（2023年） そのほか授業にて参考文献を指示する</p>		<p>参考文献： 相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子〔編〕『y-kont これからの教育社会学』有斐閣（2023年） 中村高康・松岡亮二〔編〕『現場で使える教育社会学：教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房（2021年） 久富善之・長谷川裕〔編〕『教育社会学—第二版』学文社（2019年）飯田浩之・岡本智周『教育社会学（MINERVA はじめて学ぶ教職）』ミネルヴァ書房（2018年）</p>	
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>			
<p>学生へのアドバイス： 教育社会学は現代の教育問題と密接に関わるため、新聞やネット、テレビなどで紹介されている教育社会学に関連する記事を読むなど、教育問題にかかわる問題に関心をもっておくことが望ましい。</p>			
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>			

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	教 育 心 理 学 (Educational Psychology)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	田 村 修 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 幼 児、児 童 及 び 生 徒 の 心 身 の 発 達 お よ び 学 習 の 過 程 に つ い て、心 理 学 的 な メカ ニ ズ ム を 学 ぶ こ と に よ り、将 来、教 職 に 携 わ る 者 と し て 必 要 な 発 達 と 学 習 の 支 援 の あ り 方 に つ い て 考 え る。									
授 業 目 標 : 1. 幼 児、児 童 お よ び 生 徒 の 心 身 の 発 達 お よ び 学 習 の 過 程 に つ い て 理 解 で き る。 2. 各 発 達 段 階 に お け る 心 理 的 特 性 を 踏 ま え た 学 習 活 動 を 支 え る 指 導 の 基 礎 と なる 考 え 方 を 理 解 で き る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション (授業の進め方、評価方法の説明) 発達とは何か (成熟と学習の違いについて考える)					事前: シラバスに目を通す 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
2	発達段階と発達課題 (エリクソンの生涯発達論)					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
3	運動と言語の発達					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
4	認知の発達 (ピアジェの認知発達論)					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
5	社会性の発達 (ボウルヴィの愛着理論)					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
6	思春期・青年期の発達 (アイデンティティの確立)					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
7	学習の理論 (条件づけと観察学習)					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
8	認知と学習 (記憶のメカニズム)					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 45 分 演習 45 分	
9	学習形態と指導					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
10	動機づけ					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
11	学級のアセスメントと集団づくり (Q-U の理解と活用)					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
12	学習の評価					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
13	発達と教育 (これからの教育に必要なことを考える)					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
14	発達障害 (LD、ADHD、自閉症スペクトラム) の理解					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
15	発達障害 (LD、ADHD、自閉症スペクトラム) の支援					事前: なし 事後: 授業の振り返りの記入		講義 70 分 振り返り 20 分	
教 本 : 「学習と発達」内藤佳津雄・北村世都・鏡直子 弘文堂 2020 年					参 考 文 献 : 「よくわかる学校心理学」水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 ミネルヴァ書房 2013 年				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 平 常 点 (毎 回 の 授 業 へ の 参 加 態 度、学 び の 振 り 返 り レポ ー ト、個 別 課 題 発 表) 40% と 定 期 試 験 (60%) の 総 合 評 価。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 「教育現場では、大学の教職課程の学びは役に立たない」などと言われますが、そんなことはありません。しっかり学びましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	教 育 相 談 (Educational Counseling)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	田 村 修 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	「教育心理学」の授業を履修済であること。							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 :									
本授業では、教職志望者のためのスクール・カウンセリング (①理論、②技法、③アセスメント法) について学ぶ。治療的カウンセリングだけではなく予防・開発的カウンセリングについても学ぶ。そして、生徒理解を深め、効果的な指導・援助ができるように演習を交え体験的に学ぶ。									
授 業 目 標 :									
学校現場の大きな課題であるいじめ、不登校、学業不振、特別支援教育などの解決のためには、教師がカウンセリング理論や技法を学んでおく必要がある。そこで本授業では、教師に必要なカウンセリング理論、教育相談の基本的技法、生徒理解を深めるための心理アセスメント法の習得を目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション (授業の進め方、評価方法の説明) 学校教育における教育相談の意義					事前：シラバスに目を通す 事後：学びの振り返り		講義 70 分 振り返り 20 分	
2	学校心理学を基盤とした教育相談の進め方					事前：なし 事後：学びの振り返り		講義 70 分 振り返り 20 分	
3	カウンセリング理論① 精神分析理論					事前：なし 事後：学びの振り返り		講義 70 分 振り返り 20 分	
4	カウンセリング理論② 認知行動理論					事前：なし 事後：学びの振り返り		講義 70 分 振り返り 20 分	
5	カウンセリング理論③ 人間性心理学：パーソン・センタード (来談者中心) アプローチ					事前：なし 事後：学びの振り返り		講義 70 分 振り返り 20 分	
6	グループ・カウンセリングの技法① 構成的グループ・エンカウンター (SGE) の活用					事前：なし 事後：学びの振り返り		演習 90 分	
7	グループ・カウンセリングの技法② グループワーク・トレーニング (GWT) の活用					事前：なし 事後：学びの振り返り		演習 90 分	
8	事例研究① いじめの理解と援助					事前：なし 事後：学びの振り返り		講義 70 分 振り返り 20 分	
9	事例研究② 不登校の理解と援助					事前：なし 事後：学びの振り返り		講義 70 分 振り返り 20 分	
10	事例研究③ 発達障害の理解と特別支援教育					事前：なし 事後：学びの振り返り		講義 70 分 振り返り 20 分	
11	個別カウンセリングの技法：傾聴トレーニング					事前：なし 事後：学びの振り返り		演習 90 分	
12	心理教育的アセスメント① 交流分析とエゴグラムの理解と活用					事前：なし 事後：学びの振り返り		講義 60 分 演習 30 分	
13	心理教育的アセスメント② 知能検査 (WISC) の理解と活用					事前：なし 事後：学びの振り返り		講義 70 分 振り返り 20 分	
14	心理教育的アセスメント③ 心理検査 (描画法：バウムテスト) の理解と活用					事前：なし 事後：自己分析レポート作成		講義 60 分 演習 30 分	
15	保護者の悩みに対する教育相談					事前：なし 事後：学びの振り返り		講義 60 分 演習 30 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「スクールカウンセリングのこれから」石隈利紀・家近早苗 創元社 2021 年					「チーム学校力を高めるカウンセリング」水野治久・田村修一編著 ぎょうせい 2022 年				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平常点 (毎回の授業への参加態度、振り返りレポート) 40%と期末試験 (60%) の総合評価。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
「教育現場では、大学の教職課程の学びは役に立たない」と言われますが、そんなことはありません。しっかり学びましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	教 育 方 法 論 (情 報 通 信 技 術 の 活 用 含 む) (The Method of Education (including use of ICT))							科 目 分 類	教 職 課 程 科 目
担 当 教 員	佐 瀬 電 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
毎 回、授 業 の 最 初 に 心 身 を 落 ち 着 か せ る ワ ー ク な ど を 行 う。そ の 後 以 下 の「授 業 計 画」に 沿 っ て Scrapbox な ど を 用 い て、こ れ か ら の 社 会 を 担 う 生 徒 に 求 め ら れ る 資 質 ・ 能 力 を 育 成 す る た め に 必 要 な 教 育 の 方 法 に 関 す る 知 識 や 技 術、情 報 機 器 及 び 教 材 の 活 用 に 関 す る 基 礎 的 な 知 識 ・ 技 能 を 段 階 的 に 理 解 し、修 得 す る こ と を 目 指 す。									
授 業 目 標 :									
こ れ か ら の 社 会 を 担 う 生 徒 に 求 め ら れ る 資 質 ・ 能 力 を 育 成 す る た め に 必 要 な 教 育 の 方 法 に 関 す る 知 識 や 技 術、ICT (情 報 通 信 技 術) お よ び 教 材 の 活 用 に 関 す る 基 礎 的 な 知 識 ・ 技 能 ・ 考 え 方 を 身 に 付 け る。									
到 達 目 標 :									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教 育 の 方 法 に 関 す る 知 識 や 技 術、ICT (情 報 通 信 技 術) 及 び 教 材 の 活 用 に 関 す る 基 本 的 な 用 語、活 用 の 意 義 を 分 かり や す く 説 明 す る こ と が で き る。 ・ 社 会 的 背 景 の 変 化 や 急 速 な 技 術 の 発 展 も 踏 ま へ て、個 別 最 適 な 学 び と 協 働 的 な 学 び の 実 現 や、主 体 的 ・ 対 話 的 で 深 い 学 び の 実 現 に 向 け た 授 業 改 善、環 境 整 備 に つ い て の 自 分 の 考 え を 述 べ る こ と が で き る。 ・ 授 業 で 学 ん だ 教 育 の 方 法 に 関 す る 知 識 や 技 術、ICT (情 報 通 信 技 術) 及 び 教 材 の 活 用 に 関 す る 基 礎 的 な 知 識 ・ 技 能 を 活 用 し て、主 体 的 ・ 対 話 的 で 深 い 学 び を 実 現 す る た め の 授 業 設 計、学 習 指 導 案 お よ び 教 材 の 作 成 が で き る。 									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力、カリキュラムマネジメント					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
2	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方 (主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びと協働的な学びの実現)					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
3	授業を構成する基礎的な要件、カリキュラムマネジメント、インストラクショナルデザイン					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
4	インストラクショナルデザインと ICT の活用の実際(1)：学習目標、学習評価					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
5	インストラクショナルデザインと ICT の活用の実際(2)：教材・教具の基本、デジタル教材					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
6	インストラクショナルデザインと ICT の活用の実際(3)：授業法力の基本、ICT を用いた授業方略					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
7	インストラクショナルデザインと ICT の活用の実際(4)：主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びと協働的な学びを実現するための工夫および ICT の活用					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
8	個別最適な学びと協働的な学び、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に ICT を用いた最新の実践例 (特別の支援を必要とする生徒への ICT 活用を含む)					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
9	ICT を効果的に活用した遠隔・オンライン教育の方法やその実践例					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
10	ICT を用いた学習指導：学習履歴 (スタディ・ログ) などの教育データ、ポートフォリオ、教育情報セキュリティ					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
11	統合型校務支援システムを含む ICT を効果的に活用した校務の推進、学校における ICT 環境の整備の在り方					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
12	(情報モラルを含む) 学習者の情報活用能力を育成する方法：基本的な考え方と実践事例					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
13	授業内容を踏まえた学習指導案の作成					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
14	作成した学習指導案の相互チェックと修正					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
15	授業の総括：学びの地図の作成					事前：Scrapbox を読む 事後：Scrapbox を読み返す		講義・演習	
教本： 特定の教科書は使用しない。					参考文献： 授業の中で適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 学びの地図 30%、作成した学習指導案 30%、授業内外で課す入力課題 40%									
学生へのアドバイス： 講義科目ではあるが、ワーク (個人・グループ) が多い授業であることを承知の上で履修すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	教 師 論 (The Study of Teacher)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	小 澤 昌 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	教 職 課 程 履 修 生 し か 受 講 で き ま せ ン							
授 業 概 要 :									
この授業は教職を将来の選択肢として考え、現代社会において教職に求められる教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、自らの適性を判断し教職への意欲を高めることを目標とします。具体的には(1)教職の社会的意義、(2)教員に求められる役割や資質能力、(3)教員の職務内容の全体像や教員の服務、(4)学校が内外の専門家等と連携する「チーム学校」への対応など教職に関する基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。									
授 業 目 標 :									
①今日の学校教育や教職の社会的意義について、自分の考えを述べることができる。									
②教師像の変遷を概観し、今日の教師に求められる役割や、資質・能力を説明できる。									
③教員の職務と義務を理解し、職務遂行のために何が必要かをディスカッションできる。									
④教員の服務上・身分上の義務と身分保障について理解できる。									
⑤チーム学校への対応を理解し、家庭・学校・社会との連携の必要性を説明できる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	「教師論」を学ぶ意味(オリエンテーション):授業の概要および評価方法等について説明する。教師を目指すということについて考える。					事前:シラバスを読む 事後:配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく		講義(90分)	
2	公教育の特質と教職の意義:教師の仕事とその魅力について学ぶ。					事前:次の配布資料を読む 事後:配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく		講義(60分) ディスカッション(30分)	
3	教師の職務内容:日本の教職の特徴と専門性について学ぶ。					事前:次の配布資料を読む 事後:配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく		講義(60分) ディスカッション(30分)	
4	教職の歴史:教師像の変遷について学ぶ。					事前:次の配布資料を読む 事後:配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく		講義(90分)	
5	教師教育の制度①:教師の服務と職務上・身分上の義務について学ぶ。					事前:次の配布資料を読む 事後:配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく		講義(60分) ディスカッション(30分)	
6	教師教育の制度②:教員の権利と身分保障について学ぶ。					事前:次の配布資料を読む 事後:配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく		講義(60分) ディスカッション(30分)	
7	教師教育の制度③:学び続ける教師と教員研修制度について学ぶ。					事前:次の配布資料を読む 事後:配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく		講義(60分) ディスカッション(30分)	
8	多様な関係者との連携のあり方-チーム学校:「チームとしての学校」の対応や、保護者や地域との連携・協働の在り方について学ぶ。					事前:次の配布資料を読む 事後:配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく		講義(60分) グループワーク(30分)	
9	教師の専門職性①:「学びの場」を生み出す教師について学ぶ。					事前:次の配布資料を読む 事後:配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく		講義(50分) グループワーク(30分) 発表(10分)	
10	教師の専門職性②:〈いのち〉に向き合う学校づくりについて学ぶ。					事前:次の配布資料を読む 事後:配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく		講義(50分) グループワーク(30分) 発表(10分)	
11	教師と生徒の関係①:いじめの実情と自尊感情の醸成について学ぶ					事前:次の配布資料を読む 事後:配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく		講義(50分) グループワーク(30分) 発表(10分)	
12	教師と生徒の関係②:生徒における性の多様性をめぐる課題について学ぶ。					事前:次の配布資料を読む 事後:配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく		講義(50分) グループワーク(30分) 発表(10分)	
13	多様化する子どもの課題:子どもたちの今日的課題(子どもの貧困、特別支援教育のニーズ、不登校など)について学ぶ。					事前:次の配布資料を読む 事後:配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく		講義(50分) グループワーク(30分) 発表(10分)	

14	教師に求められる資質・能力：「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿について学ぶ。	事前：次の配布資料を読む 事後：配布資料やノートの内容を確認し、キーワードを調べておく	講義(50分) グループワーク(30分) 発表(10分)
15	まとめ・変わり続ける教師像に向き合う：まとめ、学びの振り返りを行う。	事前：ポートフォリオの整理 事後：学びの振り返りを行う	講義(60分) ディスカッション(30分)
<p>教本： 汐見稔幸・那須正裕・佐久間亜紀・佐伯胖編『現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年 ISBN：978-4-623-08536</p>		<p>参考文献： 小島弘道・比神正行・平井貴美代『教師の条件—改訂新版：授業と学校をつくる力—』学文社、2024年 八尾坂修編『新時代の教職概論 学校の役割を知る 教師の仕事を知る』ジダイ社、2018年 秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門第3版』有斐閣、2024年 そのほか授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。</p>	
<p>成績評価の方法、評価基準： ポートフォリオ評価（コメントカード・ディスカッションペーパー、レポート課題、振り返り等）60%、小テスト10%、期末試験30%で総合評価する。 ※ポートフォリオ評価は、ルーブリック（評価基準）による自己評価を含む。</p>			
<p>学生へのアドバイス： 日頃から教師や学校教育制度に関する出来事や情報に積極的に興味・関心をもつとともに、新聞記事やインターネット等の情報をもとに自分なりの意見をもつことが望ましい。</p>			
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>			

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	教 職 実 践 演 習 (Practical Study for Teaching)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	深 谷 野 亜 ・ 大 沢 裕 ・ 石 上 七 穂 ・ 山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	教 師 に な る 意 欲 の あ る 者							
授 業 概 要 :									
<p>教職課程の仕上げの授業にあたる。大学4年間で学んだことと教職実習での経験を整理・統合し、教員としての資質の向上を図るものである。授業形態としては講義を減らし1討議や発表、現場見学を組み合わせ、実際の教職現場を想定した実践形式での授業を行っていく。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>教師として必要な資質を各自が確認し、実践的な指導力を有する教員としての資質向上に務める。 具体的な目標としては以下の4点である。 ①教師としての使命感や責任感を持ち、子どもに対する愛情が豊かであるか。②教師として必要な社会性や対人関係能力を身につけているか。③生徒理解や学級運営について、必要な基礎的な能力が身につけているか。④教科内容の基礎的な指導力を身につけているか。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態		
1	これまでの学習の振り返りについて				事後：ふりかえり、レポートを作成		講義30分・ディスカッション40分・発表20分		
2	学校経営についてI				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義40分・ディスカッション30分・発表20分		
3	学校経営についてII				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義40分・ディスカッション30分・発表20分		
4	教育相談の方法				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義30分・ロールプレイ30分・ディスカッション30分		
5	教職の意義：教員の役割				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義40分・ディスカッション30分・発表20分		
6	児童・生徒とのコミュニケーション				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義40分・ディスカッション30分・発表20分		
7	いじめ理解について				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義50分・ロールプレイ30分・発表10分		
8	子ども理解の方法				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義60分・ディスカッション20分・発表10分		
9	学校現場の見学I（森の里中学校）				事前：それぞれ何に着目するか考えておく		見学90分		
10	学校現場の見学II（森の里中学校）				事後：見学から何を考えたかまとめる		見学60分・ディスカッション30分		
11	模擬授業I				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義20分・模擬授業60分・講義10分		
12	指導力がある教師				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義60分・ディスカッション20分・発表10分		
13	保護者との対応				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義40分・ロールプレイ20分・ディスカッション30分		
14	教職の意義・教員の役割				事前：配布プリントを読む 事後：配布プリントの課題を行う		講義50分・ディスカッション20分・発表20分		
15	模擬授業II				事前：指導案を作成 事後：模擬授業の反省をまとめる		講義20分・模擬授業60分・講義10分		
教 本 :					参 考 文 献 :				
大学で準備した教材をもとに授業をすすめる。					必要に応じて授業時間内に紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授業参加状況等 (40%)、小テスト・レポート等 (10%)、授業内試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 欠席しないよう希望する。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	公民科教育法 I (Teaching Approach to the Civics I)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	高乗 智之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 高等学校における公民科教育法の意義と現代社会の政治経済問題について述べるとともに、政治経済の基本理論と現代の経済の目標、教える上での教材の研究、指導方法・計画、授業のポイントなど、評価等を学ぶ。									
授業目標： 国際化、IT 情報化が急速に進展し、世界情勢が激動するなかで、現代社会の政治・経済の役割は益々重要になってきている。そのような状況の下、公民科教育、とりわけ政治経済の授業が実践でき、生徒にしっかり理解させるように資質を養い、必要な知識と教育技術を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	現代社会における重要課題—公民の視点から					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
2	学習指導要領の解説：公民の中の政治・経済分野に関する歴史の変遷と今後の展開					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
3	政治・経済分野の目標と内容の全体的な構造					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
4	政治分野の内容の指導上の留意点					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
5	経済分野の内容の指導上の留意点					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
6	政治・経済分野の学習評価の視点					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
7	政治・経済分野と関連する学問的領域（政治学、経済学）					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
8	政治・経済分野の発展的な学習の内容					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
9	学習指導案の作成：政治・経済分野の学習指導計画の立案と学習指導案の作成の仕方					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
10	政治・経済的分野の教材研究の仕方と模擬授業の方法（情報機器の活用方法を含む）					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
11	模擬授業と振り返り① わが国の政治					事前：模擬授業準備 事後：改善		模擬授業	
12	模擬授業と振り返り② 国際政治					事前：模擬授業準備 事後：改善		模擬授業	
13	模擬授業と振り返り③ わが国の経済					事前：模擬授業準備 事後：改善		模擬授業	
14	模擬授業と振り返り④ 国際経済					事前：模擬授業準備 事後：改善		模擬授業	
15	全体のまとめ					事前：指導案作成 事後：指導案修正		講義	
教本： 『高等学校学習指導要領』（最新版） 『詳述 公共』実教出版（最新版）					参考文献： 講義中に適宜指示				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 プレゼンテーション及び質疑応答（30%）、模擬授業（20%）、レポート（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自分の授業スタイルを意識し、教育のあるべき姿を常に考えて欲しい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	公民科教育法Ⅱ (Teaching Approach to the Civics Ⅱ)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	高乗 智之								
履 修 条 件	前提科目	公民科教育法Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 高等学校学習指導要領解説公民編をもとに教科・科目の目標や内容について理解する。公教育制度における公民科の役割を念頭に置いた授業を展開できるように理解を深める。また、学習指導案の作成の仕方と教材研究の方法などを学ぶ。模擬授業を通して授業設計の重要性を理解し、学習指導の技能の基礎を学ぶ。									
授業目標： 科目の学習指導案の作成の仕方と教材研究の方法などの実践的な技能の習得をする。 公民科教育における様々な指導方法の実践力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	高等学校公民科の解説：公民科・各科目の目標と内容					事前：学習指導要領を読む 事後：学習指導要領を理解		講義	
2	学習指導要領の解説：公民科教育の歴史の変遷と今後の展望					事前：学習指導要領を読む 事後：学習指導要領を理解		講義	
3	学習指導案の作成：学習指導計画の立案と学習指導案の作成の仕方					事前：指導書を読む 事後：自ら作成		講義	
4	教材研究の仕方と模擬授業の方法（情報機器の活用方法を含む）					事前：関連資料を読む 事後：指導案の作成		講義	
5	評価の方法と考え方					事前：関連資料を読む 事後：理解を深める		講義	
6	模擬授業①（現代社会の特質）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
7	模擬授業②（現代社会における青年）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
8	模擬授業③（自己形成と社会とのかかわり）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
9	模擬授業④（哲学と人間）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
10	模擬授業⑤（宗教と人間）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
11	模擬授業⑥（近代科学の考え方）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
12	模擬授業⑦（人間の尊厳）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
13	模擬授業⑧（人間性の回復を求めて）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
14	模擬授業⑨（日本の伝統思想の考え方）					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		講義	
15	総括（教材研究の重要性・授業改善の取り組みなどを含む）					事前：関連資料を読む 事後：改善点をまとめる		講義	
教本： 文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』 『詳述 公共』実教出版（最新版）					参考文献： 濱井修・小寺聡『現代の倫理』山川出版（最新版） その他は講義中に適宜指示				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、模擬授業・プレゼンテーション等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 「公民」の育成とは何かを常に模索して欲しい。授業を考える際には、どのような意図をもち、どのような授業展開をしていくのかを考えて欲しい。魅力的な授業を展開できるよう情報に敏感になって欲しい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国語科教育法 A (Japanese Language Educational Method A)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	伊 藤 高 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 「国語科学学習指導要領」と「国語教育史」を踏まえ、中学・高校の国語科教育の基礎的な理論と学習指導理論を、現行教科書の教材を用いて具体的に検討し、実践力を身につける。									
授 業 目 標 : 「国語科学学習指導要領」と「国語教育史」を踏まえ、中学・高校の国語科教育の目的、内容と方法、教材づくりと教材研究学習指導理論を学ぶ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	国語教師論 これまでどんな教師に出会ってきたか? どんな教師になりたいか? を話し合い、教師とは何かを考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義 60 分 演習 30 分	
2	「国語科学学習指導要領」の概要 学習指導要領を読み、その法的根拠は何かを考える					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習	
3	現代の国語と国語表現に関する目標と内容、全体構造を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習	
4	現代の国語と国語表現に関する学習内容と学習指導上の留意点を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習	
5	現代の国語と国語表現に関する学習評価を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習	
6	現代の国語と国語表現を考える学習評価を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習	
7	現代の国語と国語表現に関する発展的な学習内容を発想する					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習	
8	古典の国語の学習の目標と内容を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習	
9	古典の国語の学習内容と学習指導上の留意点を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習	
10	古典の国語と学習内容に関する学習評価を学ぶ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習	
11	模擬授業の組み立て①					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習	
12	模擬授業の組み立て②					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習	
13	模擬授業の組み立て③					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習	
14	模擬授業の組み立て④					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義と演習	
15	まとめ					事前: 指定資料の予習 事後: 授業の復習		講義	
教 本 : プリント配布 「中学校国語科学学習指導要領」(最新版) 「高等学校国語科学学習指導要領」(最新版)					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、コ メ ン ト ・ カ ー ド (20%)、模 擬 授 業 案 と そ の 実 践 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 国 語 科 教 員 と な る た め の 第 一 歩 で す。じ っ く り と 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国語科教育法B (Japanese Language Educational Method B)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	伊藤 高雄								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 「国語科学習指導要領」の教科構造にそって、4 領域・1 事項の言語活動の学習指導の在り方を実践事例から学ぶ。 「思考・判断・表現」を重視した言語活動の単元開発の基礎・基本を実践事例から学ぶ。									
授業目標： 中学・高等学校の国語科の教育目標と教科内容を理解し、「学習指導要綱」の教科構造に沿い、言語と4 領域の言語活動についての学習指導のあり方を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	講義ガイダンス 国語科の授業のあり方を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義60分 演習30分	
2	国語科学習指導案の構想と指導案を学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	「読むこと－説明文・評論文」の指導を具体的な教科書教材で構想する					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	「読むこと－文学的文章」の指導を具体的な教科書教材で構想する					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	「読むこと－古典」の指導を具体的な教科書教材で構想する					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	「書くこと－レポート」の指導を具体的な教科書教材で構想する					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	「書くこと－創作文」の指導を短歌創作で実践する					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	「話すこと・聞くこと－ディスカッション」の指導をことば遊びの教材で実践する①					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	「話すこと・聞くこと－ディスカッション」の指導をことば遊びの教材で実践する②					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	模擬授業の組み立て①					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	模擬授業の組み立て②					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	模擬授業の組み立て③					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	模擬授業の組み立て④					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	模擬授業の組み立て⑤					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： プリント配布 「中学校国語科学習指導要領」（最新版） 「高等学校国語科学習指導要領」（最新版）					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、コメント・カード（20%）、模擬授業案とその実践（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 中学校教科書教材とプリント教材を使用します。教材をよく読んで毎回のテーマを具体的に論じましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	国語科教育法C (Japanese Language Educational Method C)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	国語学・国文学関連の科目、国語科教育法A・B							
	その他	教職課程履修者(上記科目を履修していなくても履修できます)							
授業概要：コアカリキュラムに示された次の「一般目標」の修得を目指します。 ・現行の学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解する。 ・基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。									
授業目標：「一般目標」に到達するために、次の「到達目標」の達成をはかります。 1. 学習指導要領における国語科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2. 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3. 国語科の学習評価の考え方を理解している。 4. 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 5. 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション 学習指導要領における国語科の目標・内容・全体構造を理解する。(小テスト)					事前：学習指導要領の準備 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分	
2	「指導と評価の一体化」のための学習評価の考え方を理解する。(小テスト)					事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分	
3	[知識及び技能]「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」に関連する教材を分析し、指導上の留意点を押さえる。(小テスト)					事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分	
4	「指導計画の作成と内容の取扱い」(学習指導要領・同解説)を確認し、模擬的に教える教材を選ぶ(口語文法)。					事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分	
5	学習指導案の構成を確認し、模擬授業における指導の展開例を考える(口語文法)。					事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 個人/ペアワーク 60分	
6	学習指導案を完成させ、検討会を行う(口語文法)。					事前：学習指導案作成 事後：指導案の加筆修正		講義 30分 個人/ペアワーク 60分	
7	補助教材の準備や板書の練習、模擬授業のリハーサルをする(口語文法)。					事前：模擬授業用教材の準備 事後：模擬授業の調整		講義 30分 個人/ペアワーク 60分	
8	模擬授業、反省会 1-① 前半グループ					事前：模擬授業のリハーサル 事後：反省点をまとめる		模擬授業 45分 話し合い 45分	
9	模擬授業、反省会 1-② 後半グループ					事前：模擬授業のリハーサル 事後：反省点をまとめる		模擬授業 45分 話し合い 45分	
10	模擬的に教える教材を選び、学習指導案の構成を確認し、模擬授業における指導の展開例を考える(中学 言葉・漢字)。					事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分	
11	学習指導案の構成を確認し、模擬授業における指導の展開例を考える(中学 言葉・漢字)。					事前：配付資料を読む 事後：学習内容の整理		講義 30分 話し合い 60分	
12	学習指導案を完成させ、検討会を行う(中学 言葉・漢字)。					事前：学習指導案作成 事後：指導案の加筆修正		講義 40分 個人/ペアワーク 50分	
13	学習指導案の検討会と補助教材の準備、模擬授業のリハーサルをする(中学 言葉・漢字)。					事前：模擬授業用教材の準備 事後：模擬授業の調整		講義 40分 個人/ペアワーク 50分	
14	模擬授業、反省会 2-① 前半グループ					事前：模擬授業のリハーサル 事後：反省点をまとめる		模擬授業 45分 話し合い 45分	
15	模擬授業、反省会 2-② 後半グループ					事前：模擬授業のリハーサル 事後：反省点をまとめる		模擬授業 45分 話し合い 45分	
教本： 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」文部科学省 ￥318 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編」文部科学省 ￥737					参考文献： 中学校教科書『国語1～3』光村図書出版 高等学校教科書『現代の国語』『言語文化』				
成績評価の方法、評価基準：5つの到達目標のうち、4・5が35%ずつ、その他が10%ずつで、到達目標が達成できたかを評価します。 小テストや、指導案の作成、模擬授業の実施、授業参加状況をもとに評価します。									
学生へのアドバイス： 学習指導要領の理解、教材分析・指導上の留意点の理解、学習評価の考え方の理解、学習指導要領に基づいた指導案の作成、模擬授業を行います。熱心に取り組めば、それだけ得るものが大きくなります。国語科教員としての基礎的な能力を身につけましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国語科教育法D (Japanese Language Educational Method D)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 穂								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 中学校・高等学校教科書の古典教材の講読の授業である。古典講読を通して言語文化、古語、古典文法、敬語法を学ぶ。さらに情報機器及び学習資料の効果的な活用法を身につける。									
授業目標： <ul style="list-style-type: none"> 教科書掲載の代表的古典教材を購読し、発展単元を学習指導に位置づける。古典講読を通して日本の言語文化、古語、古典文法、敬語法の理解を深める。 教育実習に向けて、指導案作成、授業研究、模擬授業により実践力を養う。 									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス。言語文化と文学国語に関する目標と内容、全体構造を知る。					事前：なし 事後：配布資料を読む		講義	
2	言語文化と文学国語に関する学習内容の指導上の留意点を学ぶ。					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義	
3	言語文化と文学国語に関する学習評価のあり方について学ぶ。					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義	
4	言語文化と文学国語を支える学問領域（文学、言語学、歴史学）と教材（情報機器の活用）を学ぶ。					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義	
5	言語文化と文学国語に関する発展的な学習内容に向けて考える。					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義	
6	『竹取物語』冒頭 音読と解釈、文法（動詞）について学ぶ。					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
7	『竹取物語』末尾 音読と解釈、文法（形容詞その他）について学ぶ。					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
8	『竹取物語』冒頭及び末尾の学習指導案の作成の仕方を学ぶ。					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
9	『伊勢物語』冒頭 音読と解釈、文法について学ぶ。					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
10	『伊勢物語』冒頭の学習指導案の作成の仕方を学ぶ。					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
11	『今昔物語』の音読と解釈、文法について学ぶ。					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
12	『今昔物語』の学習指導案の作成の仕方を学ぶ。					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
13	漢文・漢詩の音読と解釈、訓読法（返り点その他）について学ぶ。					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
14	漢文・漢詩の学習指導案の作成の仕方を学ぶ。					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		講義・演習	
15	まとめ 漢文の模擬授業を行なう。					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		講義・演習	
教本： 「中学校国語科学習指導要領」（最新版） 「高等学校国語科学習指導要領」（最新版）					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、ノート提出（20%）、レポート（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎回必ず予習と復習をしてください。ノート提出があります。指導案の作成・模擬授業も行います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社会科教育法 I (Teaching Approach to the Social Studies I)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	増 田 裕 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 : テキストをもとに社会科と教育の主な理論と中学校社会科の目標・内容 (中学校学習指導要領)、授業づくりなどの基礎を学ぶ。									
授 業 目 標 : 中学校社会科についての基礎理論と授業づくりの基礎、および現行中学校学習指導要領における中学校社会科の目標・内容、教科指導の在り方などについて理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	社会科教育とは。実践知としての社会科 I 社会教育の理論について考える・社会科の思想的、歴史的基盤を探る。					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	社会科の理論について ①育てる人間像とは ②社会科と歴史科・地理科・公民科との違い ③社会科の起源 ④日本の社会科の始まり					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
3	社会科の方法原理を探る ①「問題解決」の方法に基づく社会科 ②「理解」 ③「説明」 ④「議論」					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
4	社会科の学力と評価の理論を探る (1) ①基礎、基本とは一学力をめぐる紛争一 ②21世紀型能力とは一コンピテンシー一					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
5	社会科の学力と評価の理論を探る (2) ③目標に準拠した評価とは一到達度評価一 ④観点別評価とは社会科の方法原理を探る					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
6	社会科の授業づくりの理論を探る (1) ①授業デザイン ②学習指導案のかたち					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
7	社会科の授業づくりの理論を探る (2) ③教材研究の視点と方法 ④授業研究一授業のPDCA一					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
8	社会科の学習指導の方法を探る (1) ①アクティブ・ラーニングの活用 ②教科書の活用					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
9	社会科の学習指導の方法を探る (2) ③ICTの活用 ④野外観察、地域調査1					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
10	II 社会教育の実践について考える 評価の高い実践に学ぶ (1) ①長岡文雄 ②有田和正					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
11	評価の高い実践に学ぶ (2) ③河原和之 ④加藤公明					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
12	現行小学校の実践に学ぶ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
13	現行中学校の実践に学ぶ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
14	学習指導案について					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教 本 : 『社会科教育のルネサンスー実践知を求めてー』原田智仁編著 教育情報出版 ¥2,497									
参 考 文 献 : 文部科学省著『中学校学習指導要領』(最新版) 文部科学省著『中学校学習指導要領解説社会編』(最新版)									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等 (40%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : レポート提出も大きな評価対象です。忘れないように。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社 会 科 教 育 法 Ⅱ (Teaching Approach to the Social Studies Ⅱ)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	増 田 裕 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	『社会科教育法Ⅰ』を修得済みであること							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 : 現在の日本の社会科教育について、学習指導要領社会科解説(最新)をテキストにして、地理的分野、歴史的分野、公民的分野それぞれの目標や内容を学びます。									
授 業 目 標 : 学習指導要領社会科の目標や内容について把握し、教員になるためのスキルを向上することが目標です。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	中学校学習指導要領について ①改訂の経緯及び基本方針 ②社会科総説					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	教科の目標及び内容					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
3	中学校学習指導要領地理的分野(1) A 世界と日本の地域構成 B 世界の様々な地域 C 日本の様々な地域					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
4	中学校学習指導要領地理的分野(2) 内容の取扱い A～Cの内容について配慮すべき点等を確認する。					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
5	中学校学習指導要領地理的分野(3) まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
6	中学校学習指導要領歴史的分野(1) A 歴史との対話 B 近世までの日本とアジア C 近現代の日本と世界					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
7	中学校学習指導要領歴史的分野(2) 内容の取扱い A～Cの内容について配慮すべき点等を確認する。					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
8	中学校学習指導要領歴史的分野(3) まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
9	中学校学習指導要領公民的分野(1) A 私たちと現代社会 B 私たちと経済 C 私たちと政治 D 私たちと国際社会の諸課題					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
10	中学校学習指導要領公民的分野(2) 内容の取扱い A～Dの内容について配慮すべき点等を確認する。					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
11	中学校学習指導要領公民的分野(3) まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
12	指導計画の作成と内容の取扱い(1) 指導計画を作成する上の注意点					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
13	内容の取扱いと指導計画のまとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
14	模擬 学習指導案の作成(1)					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
15	模擬 学習指導案の作成(2) まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教 本 : 文部科学省著『中学校学習指導要領(平成29年告示)』 文部科学省著『社会編 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』									
参 考 文 献 :									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(30%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : レポート提出も大きな評価対象です。忘れないように。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 科 教 育 法 I (Educational Methods for Information Studies I)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と。							
授 業 概 要 :									
この授業は、(1)学習指導要領(平成30年告示)に示された教科「情報」における教育目標と教科内容を理解する。(2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目的とします。									
授 業 目 標 :									
①情報教育の背景と目的について説明できる。									
②学習指導要領における情報科の構成と目標及び主な内容について説明できる。									
③実践事例の検討を通して、情報通信技術の効果的な活用法と授業設計、教材研究について理解を深め、考察できる。									
④学習指導と学習評価の考え方について説明できる。⑤教師と学生による学びの共創を理解し、授業に取り組むことができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 概 要 と 目 的、進 め 方、評 価 方 法 等 に つ い て 説 明 す る。情 報 教 育 の 背 景 と 目 的 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー		ア イ ス プ レ イ ク (10 分) 講 義 (80 分)	
2	小 学 校 に お け る 情 報 教 育 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 動 画 (文 科 省) で 学 ぶ 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー		講 義 (75 分) デ ィ ス カ ッ シ ョ ン (15 分)	
3	中 学 校 に お け る 情 報 教 育 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 動 画 (文 科 省) で 学 ぶ 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー		講 義 (75 分) デ ィ ス カ ッ シ ョ ン (15 分)	
4	情 報 科 教 育 の 体 系 と 構 成 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 学 習 指 導 要 領 の 下 調 べ 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー		講 義 (90 分)	
5	高 等 学 校 に お け る 情 報 教 育 「情 報 I」及 び 「情 報 II」に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 学 習 指 導 要 領 の 下 調 べ 事 後 : ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー		講 義 (75 分) デ ィ ス カ ッ シ ョ ン (15 分)	
6	情 報 社 会 の 問 題 解 決 と 実 践 事 例 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 実 践 事 例 を 調 査 す る 事 後 : 小 テ ス ト の 振 り 返 り		講 義 (60 分) 小 テ ス ト (30 分)	
7	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン と 情 報 デ ザ イ ン と 実 践 事 例 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 実 践 事 例 を 調 査 す る 事 後 : ワ ー ク シ ー ト の 作 成		講 義 (70 分) 個 人 / ペ ア ワ ー ク (20 分)	
8	コ ン ピ ュ ー タ と プ ロ グ ラ ム ィ ン グ と 実 践 事 例 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 実 践 事 例 を 調 査 す る 事 後 : ワ ー ク シ ー ト の 作 成		講 義 (70 分) 個 人 / ペ ア ワ ー ク (20 分)	
9	情 報 通 信 ネ ッ ト ワ ー ク と デ ー タ の 活 用 と 実 践 事 例 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : 実 践 事 例 を 調 査 す る 事 後 : ワ ー ク シ ー ト の 作 成		講 義 (70 分) 個 人 / ペ ア ワ ー ク (20 分)	
10	専 門 教 科 情 報 科 (共 通 的 分 野) に つ い て 学 ぶ。					事 前 : テ ー マ に 関 す る 下 調 べ 事 後 : コ ン テ ン ツ の 制 作		講 義 (90 分)	
11	専 門 教 科 情 報 科 (情 報 シ ス テ ム 分 野) に つ い て 学 ぶ。					事 前 : テ ー マ に 関 す る 下 調 べ 事 後 : コ ン テ ン ツ の 制 作		講 義 (90 分)	
12	専 門 教 科 情 報 科 (コ ン テ ン ツ 分 野) に つ い て 学 ぶ。					事 前 : テ ー マ に 関 す る 下 調 べ 事 後 : コ ン テ ン ツ の 制 作		講 義 (90 分)	
13	専 門 教 科 情 報 科 (総 合 科 目) に つ い て 学 ぶ。					事 前 : テ ー マ に 関 す る 下 調 べ 事 後 : コ ン テ ン ツ の 改 善		講 義 (90 分)	
14	学 習 指 導 と 学 習 評 価 に つ い て 学 ぶ。					事 前 : テ ー マ に 関 す る 下 調 べ 事 後 : 学 び の マ ッ プ 作 成		講 義 (60 分) 振 り 返 り (30 分)	
15	授 業 の ま と め と 学 び の 振 り 返 り を 行 う。 情 報 科 教 育 法 II に つ い て 説 明 す る。					事 前 : ポ ー ト フ ォ リ オ を 整 理 事 後 : 学 び の 振 り 返 り を 行 う		講 義 (60 分) グ ル ー プ ワ ー ク (30 分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
鹿 野 利 春 ・ 高 橋 参 吉 ・ 西 野 和 典 編 著 『こ れ か ら の 情 報 科 教 育 情 報 科 教 育 法』 実 教 出 版 ISBN : 978-4-407-35521-5					文 部 科 学 省 『高 等 学 校 学 習 指 導 要 領 (平 成 30 年 告 示) 解 説 情 報 編』 ISBN : 978-4304021633 そ の 他、必 要 に 応 じ て 授 業 内 で 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ (ミ ニ ッ ツ ペ ー パ ー、ワ ー ク シ ー ト、振 り 返 り 等) : 60%、小 テ ス ト : 10%、コ ン テ ン ツ の 制 作 (発 表) : 30% で 総 合 評 価 す る。 ※ 学 習 ポ ー ト フ ォ リ オ は、ル ー ブ リ ッ ク (評 価 基 準) に よ る 自 己 評 価 を 含 む。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
こ の 授 業 は、な ぜ、小 中 高 の 情 報 教 育 に お い て プ ロ グ ラ ム ィ ン グ 教 育 を 行 う の か、プ ロ グ ラ ム ィ ン グ 的 思 考 と は 何 か を 学 ぶ 科 目 で も あ り ま す。ま た、高 度 情 報 化 社 会 に お い て 求 め ら れ る 生 き る 力 に つ い て 考 え ま す。ぜ ひ、最 近 の 情 報 教 育 の 動 向 を 知 る 機 会 に し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 科 教 育 法 Ⅱ (Educational Methods for Information Studies Ⅱ)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と。							
授 業 概 要 :									
この授業は、情報科教育法Ⅰを踏まえて、情報科教育の内容や方法の理解を深めることを目的とします。具体的には、情報技術の効果的な活用法を理解し、授業設計と学習指導案の作成を体験するとともに、模擬授業を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に付けます。									
授 業 目 標 :									
①学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成できる。									
②情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。									
③模擬授業を計画し、実施することができる。									
④模擬授業の振り返りを通して、授業改善案を提案することができる。									
⑤教師と学生による学びの共創を理解し、授業に取り組むことができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 学習指導要領と最近の情報教育の動向について学ぶ。					事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー		アイスブレイク(10分) 講義(80分)	
2	学習指導のデザインについて学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(75分) ディスカッション(15分)	
3	学習評価のデザインについて学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義(75分) ディスカッション(15分)	
4	指導と評価の計画について学ぶ。					事前：学習指導要領の下調べ 事後：模擬授業を計画する		講義(70分) 個人/ペアワーク(20分)	
5	学習指導案について学ぶ。					事前：学習指導要領の下調べ 事後：学習指導案の作成		講義(70分) 個人/ペアワーク(20分)	
6	情報社会の進展と情報技術と実践事例について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：小テストの振り返り		講義(60分) 小テスト(30分)	
7	コミュニケーションとコンテンツと実践事例について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：学習指導案の改善		講義(60分) 個人/ペアワーク(30分)	
8	情報とデータサイエンスと実践事例について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：教材の作成		講義(60分) 個人/ペアワーク(30分)	
9	情報システムとプログラミングと実践事例について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：教材の作成		講義(60分) 個人/ペアワーク(30分)	
10	情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：模擬授業の準備		講義(60分) 個人/ペアワーク(30分)	
11	模擬授業(1)の実施、授業研究(評価と授業改善)を行う。					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		模擬授業(90分)	
12	模擬授業(2)の実施、授業研究(授業設計と教材研究)を行う。					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		模擬授業(90分)	
13	模擬授業(3)の実施、授業研究(ファシリテーション)を行う。					事前：模擬授業の準備 事後：模擬授業の改善		模擬授業(90分)	
14	模擬授業(4)の実施、授業研究(振り返り)を行う。					事前：模擬授業の準備 事後：学びのマップ作成		模擬授業(60分) 振り返り(30分)	
15	授業のまとめと学びの振り返りを行う。 これからの情報教育の展望について考える。					事前：ポートフォリオを整理 事後：学びの振り返りを行う		講義(60分) グループワーク(30分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
鹿野利春・高橋参吉・西野和典編著『これからの情報科教育 情報科教育法』実教出版 ISBN : 978-4-407-35521-5					文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』ISBN : 978-4304021633				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
学習ポートフォリオ(ミニッツペーパー、学習指導案、教材、振り返り等) : 60%、小テスト : 10%、模擬授業(発表) : 30%で総合評価する。※学習ポートフォリオは、ルーブリック(評価基準)による自己評価を含む。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
この授業を受講する学生は、教育実習に向けて、学習指導案の作成、教材の作成、模擬授業の実践を通して、具体的な授業場面に体験します。ぜひ、情熱をもって参加してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	生 徒 ・ 進 路 指 導 論 (Educational and Career Guidance)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	田 村 修 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	教 育 心 理 学 を 履 修 済 の こ と。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>生徒指導と進路指導は、生徒一人ひとりの学校生活や発達上の問題の解決や、将来の希望の実現を指導・援助する学校教育サービスの一つである。本授業では、学校心理学の視点から中学生・高校生を対象とした生徒指導・進路指導について考える。具体的には、現在の中学生・高校生の実態および発達上の課題を理解し、生徒指導提議に基づく生徒指導の望ましいあり方（生徒指導モデル）と具体的な生徒指導課題に対する理解と指導・援助の基礎を学ぶ。さらに、進路指導の基礎理論およびキャリア教育の概要を理解し、具体的な進路指導の進め方について、事例を交えて考える。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 現代の中学生・高校生の発達上の課題を理解できる。 2. 学校心理学を基盤とした生徒指導提議の「2軸3類4層構造」の生徒指導・進路指導の進め方の概要を理解できる。 3. 教員のチームによる生徒指導・進路指導の有効性と課題を理解できる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の説明） 学校教育における生徒指導の意義					事前：シラバスに目を通す 事後：学びの振り返りの記入		講義70分 振り返り20分	
2	現代の中学生・高校生の発達課題と教育課題					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義70分 振り返り20分	
3	2軸3類4層構造の生徒指導					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義70分 振り返り20分	
4	チーム学校による生徒指導体制の構築					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義70分 振り返り20分	
5	基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義70分 振り返り20分	
6	発達支持的生徒指導：学級経営の工夫【Q-Uを活用した演習】					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		演習90分	
7	課題予防的生徒指導：様々な教育プログラムの工夫					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		演習90分	
8	困難課題対応的生徒指導① いじめの理解と対応					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義70分 振り返り20分	
9	困難課題対応的生徒指導② 不登校の理解と対応					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義70分 振り返り20分	
10	困難課題対応的生徒指導③ 発達障害の理解と支援					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義70分 振り返り20分	
11	進路指導の歴史と基礎理論					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義70分 振り返り20分	
12	キャリア教育概論					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義70分 振り返り20分	
13	基礎的汎用能力の育成					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		演習90分	
14	個に応じた進路指導とキャリア・カウンセリング					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義60分 演習30分	
15	発表会：キャリア教育の先進校の取り組みに学ぶ					事前：なし 事後：学びの振り返りの記入		講義30分 演習60分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「生徒指導提議」文部科学省 ジアース教育新社 2023年					「よくわかる学校心理学」水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 ミネルヴァ書房 2013年				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平常点（毎回の授業への参加態度、リアクションペーパー、振り返りレポート）40%と期末試験60%の総合評価。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
「学校現場では、大学の教職課程の学びは役に立たない」と言われますが、そんなことはありません。しっかり学びましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	総合的な学習の時間の指導法 (Teaching Method for Integrated Studies)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	小野村 浩								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 1. 総合的な学習（探究）の時間の内容と教育課程上の位置づけ、歴史の変遷。2. 総合的な学習（探究）の時間と「生きる力」。3. 総合的な学習（探究）の時間と教科指導・生活指導の関連や役割。4. 総合的な学習（探究）の時間の指導の実際と評価のあり方。ICTの活用方法のあり方。5. 総合的な学習（探究）の時間における学校の組織的な指導体制・関係機関との連携のあり方。6. 総合的な学習の時間の小中高の学校種間連携と生活指導・特別活動・教育相談・進路指導等との関連。									
授業目標： 1. 総合的な学習の時間の歴史や変遷を知り、指導のあり方を理解し取り組めるようになる 2. 総合的な学習（探究）の時間の学習指導要領上の位置づけを理解する 3. 総合的な学習の時間の意義や役割を理解し、指導・評価できるようになる 4. 総合的な学習の時間が誕生した背景や現状と課題を知り、児童・生徒に対するアプローチの方法を探求する 5. 総合的な学習の時間のアクティブな授業展開と ICT の活用方法を学ぶ 6. 学校の組織体制、関係機関との連携のあり方について理解し、組織の一員として連携できるようになる 7. 総合的な学習（探究）の時間と特別活動・進路指導との関連について理解し、教員として指導できるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に○、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	総合的な学習の時間の目標及び主な内容					事前：なし 事後：講義内で指示する		講義	
2	総合的な学習（探究）の時間の変遷及び位置づけと各教科等との関連					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
3	「生きる力」と確かな学力観＜協議・グループ発表＞					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
4	ホームルーム活動・学校行事・クラブ活動等との関連					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
5	教育課程全体で取り組む総合的な学習（探究）の時間の指導のあり方					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
6	総合的な学習（探究）の時間の評価のあり方。＜協議・グループ発表＞					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
7	総合的な学習（探究）の時間の意義とあり方					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
8	総合的な学習（探究）の時間における地域・関係機関との連携					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
9	総合的な学習（探究）の時間と「生きる力」。新学習指導要領の主体的・対話的な深い学び					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
10	総合的な学習（探究）の時間とゆとり教育、未履修問題等の経緯					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
11	総合的な学習（探究）の時間の評価のあり方と地域連携・外部人材。＜協議・グループ発表＞					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
12	総合的な時間の小中高の連携の現状と課題。＜協議・グループ発表＞					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
13	教科横断的なカリキュラムの開発。＜グループ協議＞					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
14	総合的な学習の時間（探究）の単元構想演習。＜協議・グループ発表＞					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
15	まとめ「学校教育が目指す「生きる力」とは何か？」＜協議・グループ発表＞					事前：前講義内で指示する 事後：講義内で指示する		講義	
教本： 授業中に毎時資料を配布する									
参考文献： 『学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（高等学校）文部科学省 『確実に力のつく総合的な学習の時間マネジメント』教育開発研究所 2016年									
成績評価の方法、評価基準： 課題レポート（5点×14回）期末レポート（20点）グループワーク発言等（10点）									
学生へのアドバイス： 教員としての資質・知識を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	道 徳 教 育 指 導 法 (Methodology of Moral Educaion)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	深 谷 野 亜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	教 職 課 程 履 修 生 し か 受 講 で き ま せ ン							
授 業 概 要 :									
講 義 の 前 半 は、道 徳 教 育 の 歴 史 や 学 校 教 育 に お け る 道 徳 の 在 り 方 等、道 徳 の 基 礎 的 な 知 識 を 学 習 す る。後 半 で は、自 ら が 考 え た 道 徳 的 課 題 に 即 して 授 業 を 計 画 し、模 擬 授 業 を 行 う こ と で 実 践 的 な 力 を 育 成 し て い け ます。									
授 業 目 標 :									
道 徳 と は 何 か を 理 解 し、学 校 教 育 の 中 で の 生 徒 の 同 特 定 の 育 成 を 如 何 に 取 り 組 ん で い け る か を 主 体 的 に 考 え ら れ る こ と が で き る。下 位 目 標 と し て 以 下 の 四 点 が あ る。①現 代 中 学 生 の 道 徳 の 現 状 を 確 認 し、学 校 教 育 の 中 で 道 徳 教 育 が 如 何 に 実 践 さ れ て い る か を 学 習 す る。②道 徳 の 課 題 に つ い て、今 日 の 課 題 だ け で なく 歴 史 的 な 視 点 を も っ て 理 解 で き る。③道 徳 を 指 導 す る 際 の 教 材 の 特 性 を 理 解 し、そ れ を 理 解 し た 授 業 が 計 画 で き る、指 導 案 作 成 と 模 擬 授 業 を 通 じ て 実 践 的 な 指 導 力 を 身 に つ け ます。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	道 徳 と は 何 か					事 前 : な し 事 後 : 次 回 の 配 布 資 料 を 読 む		講 義 70 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分	
2	子 童 の 道 徳 性 の 発 達 - コ ー ル バ ー グ を 中 心 に - コ ー ル バ ー グ の 理 論 を 中 心 に、道 徳 性 が 如 何 に 発 達 し て い け る か を 理 解 し ます。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
3	社 会 変 化 と 道 徳 社 会 変 化 に 伴 い、道 徳 に 関 し て ど の よ う な 影 響 が あ る か を 理 解 し ます。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
4	情 報 化 社 会 と 道 徳 SNS を つ か っ た い じ め な ど、さ ま ざ ま な 社 会 問 題 が 生 じ て い る。情 報 化 社 会 に お け る 道 徳 の 在 り 方 を 理 解 し ます。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 70 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 20 分	
5	道 徳 教 育 の 歴 史 I (修 身 の 時 代) 戦 前 の 学 校 教 育 柱 で あ っ た 修 身 の あ り 方 か ら、公 教 育 に お け る 道 徳 を 如 何 に 教 え る べ き か を 考 え ます。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
6	道 徳 教 育 の 歴 史 II (道 徳 の 時 間 の 時 代) 戦 前 の 学 校 教 育 へ の 反 省 か ら、「道 徳 の 時 間」と し て 子 童 の 道 徳 を 如 何 に 育 ん で き た か を 理 解 す る。「特 別 の 教 科 道 徳」の 意 味 を 理 解 し ます。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 70 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 20 分	
7	道 徳 教 育 の 内 容 I (主 と し て 自 分 自 身 に 関 す る こ と) こ の 単 元 の 考 え 方 ・ 課 題 を 理 解 し ます。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 80 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 10 分	
8	道 徳 教 育 の 内 容 II (主 と し て 人 と の 関 わ り に 関 す る こ と) こ の 単 元 の 考 え 方 ・ 課 題 を 理 解 し ます。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
9	道 徳 教 育 の 内 容 III (主 と し て 集 団 や 社 会 と の 関 わ り に 関 す る こ と) こ の 単 元 の 考 え 方 ・ 課 題 を 理 解 し ます。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
10	道 徳 教 育 の 内 容 IV (主 と し て 生 命 や 自 然、崇 高 な も の と の 関 わ り に 関 す る こ と) こ の 単 元 の 考 え 方 ・ 課 題 を 理 解 し ます。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
11	学 校 教 育 全 体 で、子 童 の 道 徳 を 育 む 全 体 計 画 と 年 間 指 導 計 画 を 理 解 す る。ま た、道 徳 に お け る 道 徳 教 育 推 進 教 師 の 役 割 を 理 解 し ます。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 20 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 50 分 ・ 発 表 20 分	
12	指 導 の 諸 方 法 話 し 合 い ・ 読 み 物 ・ 説 話 ・ 視 聴 覚 教 材 の 特 性 を 理 解 し ます。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 60 分 ・ グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
13	道 徳 教 育 の 評 価 の あ り 方 を 考 え る 記 述 式 の 道 徳 の 評 価 に つ い て、如 何 に 評 価 を す る べ き か、い づ ち か の 実 例 を も と に 理 解 し ます。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 20 分 ・ グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分 ・ 発 表 10 分	
14	道 徳 の 指 導 案 の 作 成 実 際 に 各 自 が 指 導 案 を 作 成 し、互 い に 指 導 案 を 批 評 ・ 検 討 し 合 う こ と で よ り よ い 指 導 案 を 作 成 す る 力 を 育 成 し ます。					事 前 : 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト の キ ー ワ ー ド を 調 べ、 考 え を ま と め る		講 義 20 分 ・ グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分 ・ 発 表 10 分	
15	模 擬 授 業 と 振 り 返 り - 反 省 を 時 間 の 授 業 に 活 か す 生 か す に は 前 回 作 成 し た 指 導 案 を も と に、模 擬 授 業 を お こ な っ て み る。そ の 上 で、 そ れ ぞ れ が 各 自 の 課 題 を 考 え て も ら い ます。					事 前 : 模 擬 授 業 と し て、指 導 案 を シ ム ム レ ー ト し て み る 事 後 : 授 業 全 体 を 振 り 替 え し、今 後 の 課 題 を ま と め る		発 表 60 分 ・ 講 義 30 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
文 部 科 学 省 「中 学 校 学 習 指 導 要 領 解 説 特 別 の 教 科 道 徳 (平 成 29 年 告 示)」そ の 他、資 料 を 配 付 し ます。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 し ます。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、レ ポ ー ト 等 (50%)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
特 別 の 教 科 「道 徳」は 一 人 一 人 が 主 体 的 に 学 び、考 え、議 論 す る 教 科 を 目 指 し て い ます。積 極 的 に 授 業 に 取 り 組 み、道 徳 へ の 理 解 を 深 め ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	特 別 活 動 論 (Methodology of Special Activity)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	小 野 村 浩								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
1. 特 別 活 動 の 内 容 と 教 育 課 程 上 の 位 置 づ け、 歴 史 的 変 遷。 2. 特 別 活 動 の 学 習 指 導 要 領 上 の 位 置 づ け。 3. 特 別 活 動 に お け る 生 徒 指 導 の 意 義 や 役 割。 4. 指 導 の 実 際 と 評 価 の あ り 方。 5. 学 校 の 組 織 的 な 指 導 体 制 ・ 関 係 機 関 と の 連 携 の あ り 方。 6. 生 活 指 導 ・ 教 育 相 談 ・ 進 路 指 導 等 と の 関 連。									
授 業 目 標 :									
1. 特 別 活 動 の 歴 史 や 変 遷 を 知 り、 指 導 の あ り 方 を 理 解 し 取 り 組 め る よ う に な る 2. 根 拠 と な る 法 令 (憲 法 / 教 育 基 本 法 / 学 校 教 育 法 / 学 校 教 育 法 施 行 規 則 等) 及 び 学 習 指 導 要 領 上 の 位 置 づ け を 理 解 す る 3. 特 別 活 動 に お け る 生 徒 指 導 の 意 義 や 役 割 を 理 解 し、 指 導 ・ 評 価 で き る よ う に な る 4. 特 別 活 動 が 始 ま っ た 背 景 や 現 状 と 課 題 を 知 り、 教 師 と し て 児 童 ・ 生 徒 に 対 す る ア プ ロ ー チ の 方 法 を 探 究 し、 教 員 と し て 正 し く 指 導 す る こ と が で き る よ う に な る 5. 学 校 の 組 織 体 制、 関 係 機 関 と の 連 携 の あ り 方 に つ い て 理 解 し、 組 織 の 一 員 と し て 連 携 で き る よ う に な る 6. 生 活 指 導 ・ 教 育 相 談 ・ 進 路 指 導 等 と の 関 連 に つ い て 理 解 し、 教 員 と し て 指 導 す る こ と が で き る よ う に な る									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、 重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	特 別 活 動 の 目 標 及 び 主 な 内 容。					事 前 : な し 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
2	教 育 課 程 に お け る 特 別 活 動 の 歴 史 及 び 位 置 づ け。					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
3	教 育 課 程 に お け る 特 別 活 動 の 各 教 科 等 と の 関 連。					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
4	学 級 活 動 ・ ホ ー ム ル ー ム 活 動 ・ 生 徒 会 (児 童 会) 活 動 ・ 学 校 行 事 ・ ク ラ ブ 活 動 の 特 質					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
5	教 育 課 程 全 体 で 取 り 組 む 特 別 活 動 の 指 導 の あ り 方。					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
6	特 別 活 動 の 評 価 の あ り 方 と 地 域 連 携。 <協 議 ・ グ ル ー プ 発 表 >					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
7	集 団 活 動 の 意 義 と 意 思 決 定 ・ 合 意 形 成 に つ な が る 指 導 の あ り 方。					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
8	特 別 活 動 に お け る 家 庭 ・ 地 域 ・ 関 係 機 関 と の 連 携。					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
9	「生 き る 力」と 平 成 29 ・ 30 ・ 31 年 改 訂 学 習 指 導 要 領 の 主 体 的 ・ 対 話 的 ・ 探 究 的 な 深 い 学 び と の 関 連					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
10	ゆ と り 教 育、 未 履 修 問 題 等 の 経 緯。					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
11	特 別 活 動 の 評 価 の あ り 方 と 地 域 連 携 ・ 外 部 人 材。 <協 議 ・ グ ル ー プ 発 表 >					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
12	特 別 活 動 の 小 中 高 の 連 携 の 現 状 と 課 題。 <協 議 ・ グ ル ー プ 発 表 >					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
13	教 科 横 断 的 な カ リ キ ュ ラ ム の 開 発。 <グ ル ー プ 協 議 >					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
14	総 合 的 な 学 習 (探 究) の 時 間 の 単 元 構 想 演 習。 <グ ル ー プ 発 表 >					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
15	ま と め … 「学 校 教 育 が 目 指 す 「生 き る 力」と は 何 か ?」 <協 議 >					事 前 : 前 講 義 内 で 指 示 す る 事 後 : 講 義 内 で 指 示 す る		講 義	
教 本 : 授 業 中 に 毎 時 資 料 を 配 布 す る									
参 考 文 献 : 【中 学 校 学 習 指 導 要 領 (平 成 29 年 告 知) 解 説 特 別 活 動 編】 文 部 科 学 省 【高 等 学 校 学 習 指 導 要 領 (平 成 30 年 告 知) 解 説 特 別 活 動 編】 文 部 科 学 省 【中 学 校 学 習 指 導 要 領 (平 成 29 年 告 知) 解 説 総 合 的 な 学 習 の 時 間 編】 文 部 科 学 省 【高 等 学 校 学 習 指 導 要 領 (平 成 30 年 告 知) 解 説 総 合 的 な 探 究 の 時 間 編】 文 部 科 学 省									
成 績 評 価 の 方 法、 評 価 基 準 : 課 題 レ ポ ー ト (5 点 × 14 回) 期 末 レ ポ ー ト (20 点) グ ル ー プ ワ ー ク 発 言 等 (10 点)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 教 員 と し て の 資 質 ・ 知 識 を 身 に つ け る た め、 積 極 的 な 態 度 で 課 題 や 授 業 に 取 り 組 む こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	特別の支援を必要とする生徒の理解 (Understanding and Supporting of Children with Special Needs)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	長南 浩人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 授業においては、パワーポイントを用いた講義による理論の学習と実践力を向上させるための事例検討を多く扱う。受講者はそれらに対して、グループ討議やペア・ワークなどを通して主体的に学ぶ。									
授業目標： 障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が、あらゆる教育場で学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	インクルーシブ教育を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組み					事前：教本第1、2章を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
2	特別支援教育の教育課程					事前：教本第3章を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
3	障害の理解と教育的対応1 発達障害(1) 自閉症スペクトラム・注意欠如多動性障害					事前：教本第6章を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
4	各障害の理解と教育的対応1 発達障害(2) 学習障害					事前：教本第6章を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
5	各障害の理解と教育的対応2 知的障害					事前：教本第5章を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
6	各障害の理解と教育的対応3 一肢体不自由					事前：教本第8章を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
7	障害の理解と教育的対応4 一病弱・身体虚弱					事前：教本第7章を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
8	各障害の理解と教育的対応5 一視覚障害					事前：教本第4章を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
9	各障害の理解と教育的対応6 一聴覚障害					事前：教本第4章を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
10	各障害の理解と教育的対応7 一盲ろう（視覚聴覚重複障害）					事前：事前配布資料を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
11	個別の教育的配慮一個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法					事前：教本第1該当箇所を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
12	通級による指導と自立活動の理論と実践					事前：教本第3章の該当箇所を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
13	学校と関係機関・家庭との連携による支援体制の構築					事前：教本第11章を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
14	障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援					事前：事前配布資料を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
15	個別支援教育の実践及び研究動向と今後の課題					事前：教本第13章を読む。 事後：授業資料で復習する。		講義	
教本： 原幸一・堀家由紀代編著『特別支援教育』 ミネルヴァ書房、2019			参考文献： ・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説一総則等編一（幼稚園・小学部・中学部）および（高等部）』 ・文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説一自立活動編一（幼稚園・小学部・中学部・高等部）』 ・富永光昭・和田良彦『教員養成、学習指導案作成、教育実習の押さえどころ』福村出版、2025						
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（15%）、小テスト・レポート等（15%）、定期試験（70%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 「特別支援教育は教育の原点である」という人もいます。その言葉の意味を考えながら、授業を受けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									